

## (6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

### 前回調査からの主要変更点

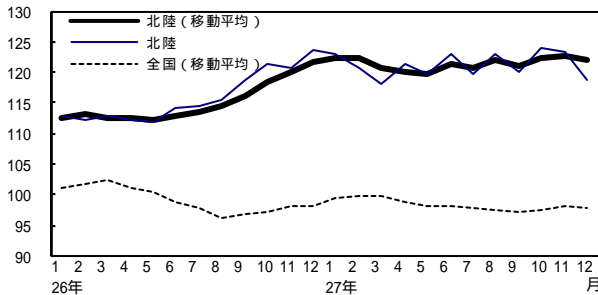
	前回(平成27年11月)	今回(平成28年2月)	
住宅建設	大幅に増加	増加	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。

10～12月期には、電子部品・デバイスは、電子部品が北米向けにスマートフォン用及び自動車用が好調なことにより増加した。化学は、後発医薬品が堅調に推移したことにより増加した。はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置が大型受注案件がなかったことにより減少した。繊維は、化学繊維が国内向け衣料の不振により減少した。金属製品は、建築用金属製品が減少した。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。  
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

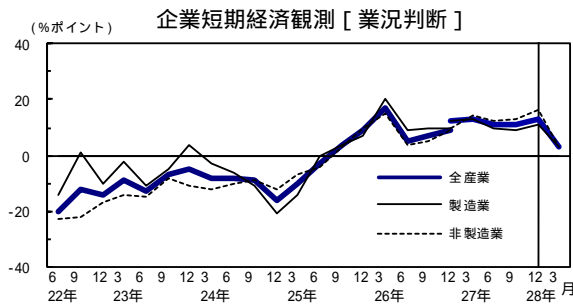
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7～9 月期	10～12 月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	20.8	0.9	5.8	3.4	3.9	11.5
化学	13.5	0.4	7.6	6.5	2.2	4.2
はん用・生産・業務用機械	12.7	2.8	5.6	24.5	17.6	0.5
繊維	8.4	2.5	2.3	0.1	1.7	1.0
金属製品	6.0	1.4	4.2	2.7	2.9	4.0
鉱工業	100.0	0.4	0.9	3.2	0.5	3.8

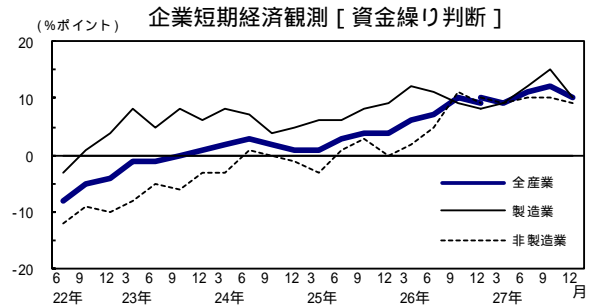
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 10～12月期、12月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は、「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

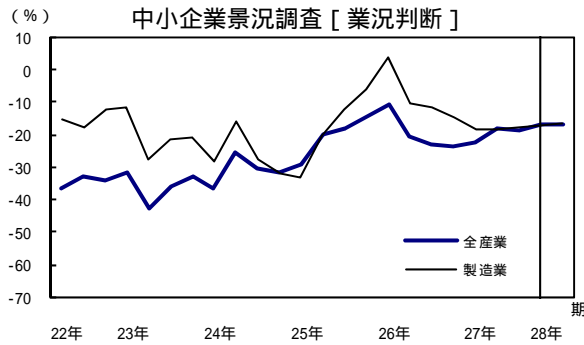
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年3月は予測。  
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月は新・旧基準を併記。

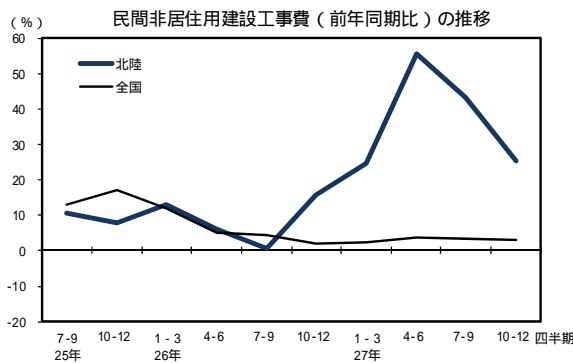


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。  
中部地区。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「衣料関係は天候の影響を非常に敏感に受けるので、動きが非常に悪い。非衣料についてはまだ安定している(繊維工業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	26年度実績	27年度見極
全産業	44.0	51.5( 0.3)
製造業	32.9	51.0( 1.2)
非製造業	56.9	52.0( 0.6)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.5%増、11月は同1.3%減、12月は同1.0%減となった。

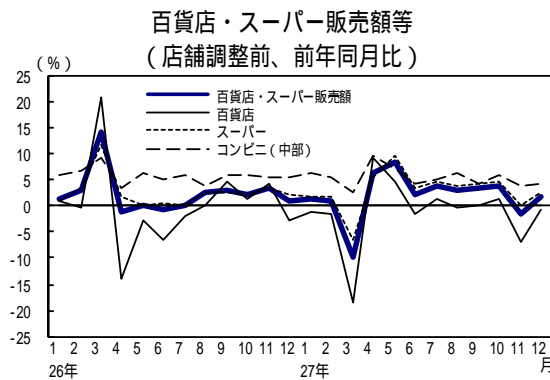
百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10月は、一部で大型商業施設がオープンした影響が続いているものの、プレミアム付商品券効果などもあって飲食料品が伸びたことから、前年を上回った。11月は、気温が高めに推移し、衣料品を中心に冬物商材が苦戦したことに加え、プレミアム付商品券の反動減もあったことから、前年を下回った。12月は、気温が高めに推移し、衣料品を中心に冬物商材が苦戦したものの、飲食料品が堅調なことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[家計動向関連 (現状)]

北陸地域の家計動向関連DIは、46.7となり前月より0.4ポイント低下した。

「昨年春から、北陸新幹線開業により団体旅行での昼食需要が例年に対して200%近くに増えていたが、12月中旬から120%ほどに減っている (高級レストラン)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

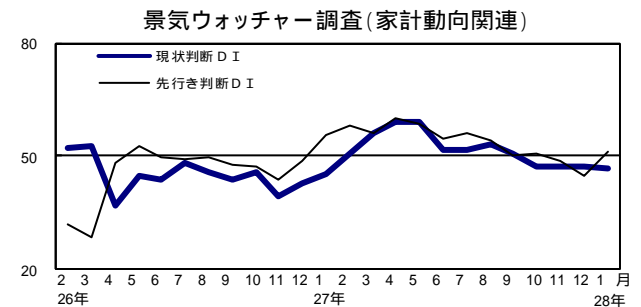
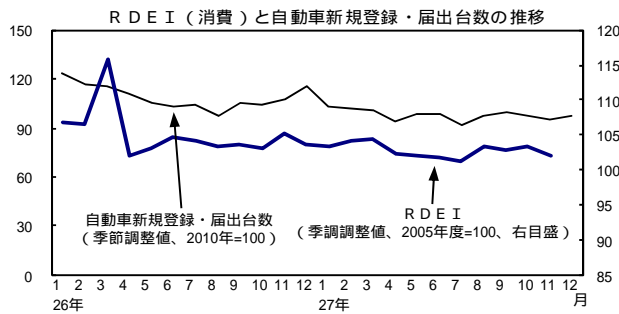


	27年10-12月	27年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.4	0.5	1.3	1.0
百貨店・スーパー(*2)	1.3	3.9	1.7	1.7
百貨店(*2)	2.2	1.3	7.1	0.8
スーパー(*2)	2.2	4.6	0.1	2.4
コンビニ(*2)	4.6	5.8	3.7	4.4
乗用車(*3)	10.5	7.9	9.4	14.2
(季節調整値)(*3)	1.0	2.0	2.7	2.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)、コンビニは中部

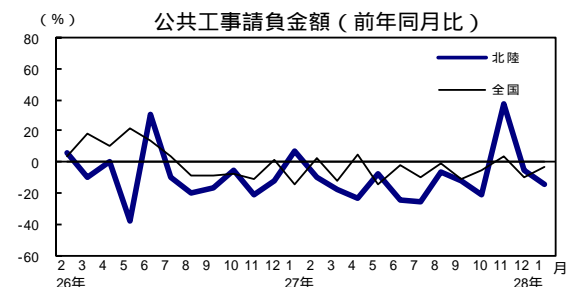
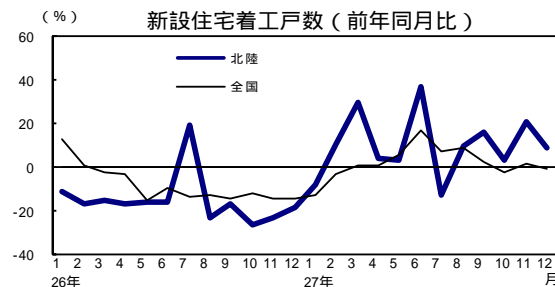
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は、増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は、27年度累計でみると前年度を下回っている。

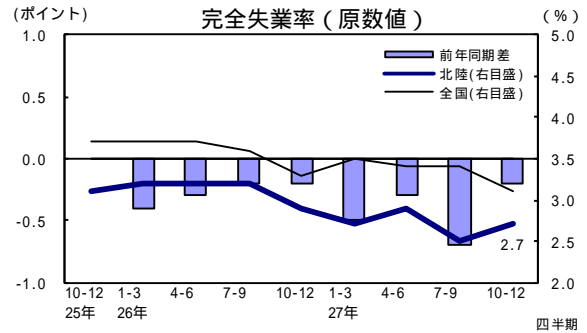
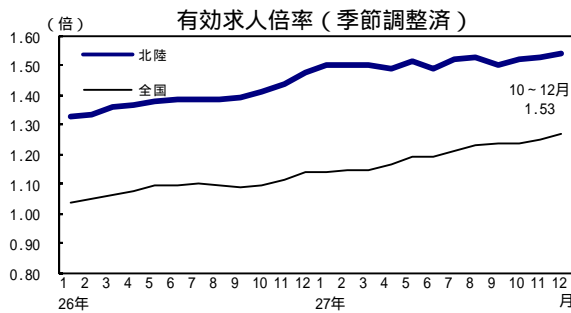


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[雇用関連(現状)]

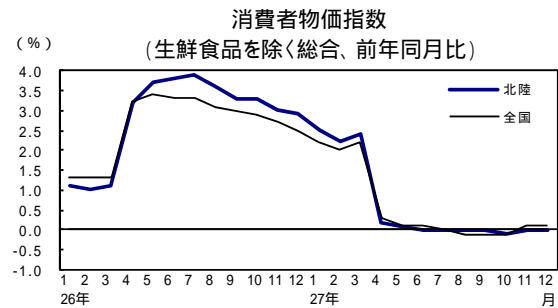
「1月の求人広告売上は、前年同月比160%であった(新聞社[求人広告])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年1-3月	4-6月	4-6月	10-12月	28年1月
倒産件数	50	59	37	54	19
(前年比)	15.3	29.8	33.9	5.9	5.6
負債総額	99	797	58	94	38
(前年比)	27.8	290.4	31.3	3.6	303.2



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・中国経済の影響で輸出が伸び悩み、思ったほどの荷動きが期待できない(輸送業)

<先行き>

・中国の経済環境悪化から、中国進出企業や輸出企業の採算性低下の懸念が出てきている。また今年度は受注確保を見通しているものの、その次となると不透明としている企業も出始めている(金融業)

